



# 犯罪被害者支援 地域円卓会議

ある日突然生活が激変してしまう、犯罪被害者という境遇に陥ったとき、そこにはどんなニーズが発生し、どういう支援があるべきなのかを考える

## 実施報告書

- 日 時： 2023年3月18日（土）13:30-16:10（受付開始13:00-）  
場 所： 沖縄県総合福祉センター1階ゆいぽーる（沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目373-1）  
主 催： 那覇市議会無所属の会  
共 催： ～犯罪被害者支援～ひだまりの会 okinawa  
特定非営利活動法人いのちのミュージアム  
公益財団法人みらいファンド沖縄  
協 力： NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成  
NPO 法人まちなか研究所わくわく  
公益財団法人みらいファンド沖縄

## 【報告】犯罪被害者支援地域円卓会議



- 日 時：2023年3月18日（土）13:30-16:10
- 場 所：沖縄県総合福祉センター1階ゆいほーる
- 着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）  
（着席者のうち1名はzoom接続にて参加）
- 来場者数：21名（学生、行政、自営業等）

- 主 催：那覇市議会無所属の会
- 共 催：～犯罪被害者支援～ひだまりの会 okinawa  
特定非営利活動法人いのちのミュージアム  
公益財団法人みらいファンド沖縄
- 協 力：NPO 法人まちなか研究所わくわく

### 論点提供 前泊 美紀 氏（那覇市議会議員）

ある日突然生活が激変してしまう、犯罪被害者という境遇に陥ったとき、そこにはどんなニーズが発生し、どういった支援があるべきなのかを考える

私達がメディア等では接しているはずなのに、なかなか身の回りでは見えにくい、犯罪被害者問題を今回の円卓会議で扱います。自分や家族など身近な人がある日突然、犯罪に巻き込まれるというトラブルは予見しにくく、当然ながら準備もできずに「ある日突然生活が激変」してしまう事象です。今回は、犯罪被害者という境遇に陥ったとき起こる生活の変化を共有しながら必要な支援と支援にあたり必要な姿勢も参加者と考える場にしたいと考えています。

### センターメンバー



前泊美紀  
那覇市議会議員



河井由美  
～犯罪被害者支援～  
ひだまりの会  
okinawa  
代表



上原義教  
交通犯罪被害者  
遺族



高木久志  
～犯罪被害者支援～  
ひだまりの会  
okinawa  
会員



池原泰子  
沖縄県犯罪被害者  
等支援アドバイザー、  
沖縄被害者支援  
ゆいセンター  
前事務局長



佐村瑞恵  
医療法人  
社団輔仁会  
田崎病院  
精神科医



上地依理子  
NHK 沖縄放送局  
記者

<板書記録>



ある日突然生活が激変してしまう、犯罪被害者という境遇に陥ったとき、そこにはどんなニーズが発生し、どういう支援があるべきなのかを考える

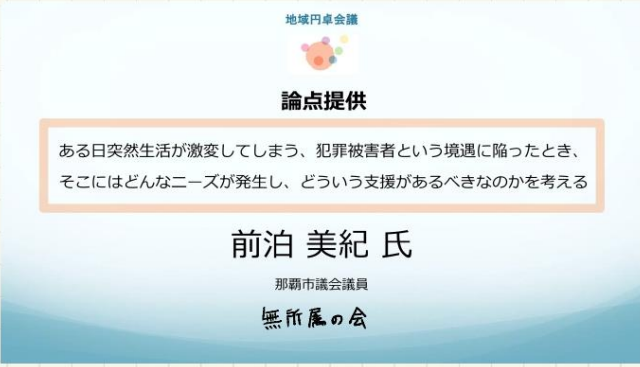
2023年3月18日 (土) 13:30-16:10 @沖縄県総合福祉センター1階 ゆいぽーる

**主催** 那覇市議会無所属の会  
**共催** ~犯罪被害者支援~ひだまりの会Okinawa、特定非営利活動法人いのちミュージアム、公益財団法人みらいファンド沖縄  
**協力** NPO法人まちなか研究所わくわく



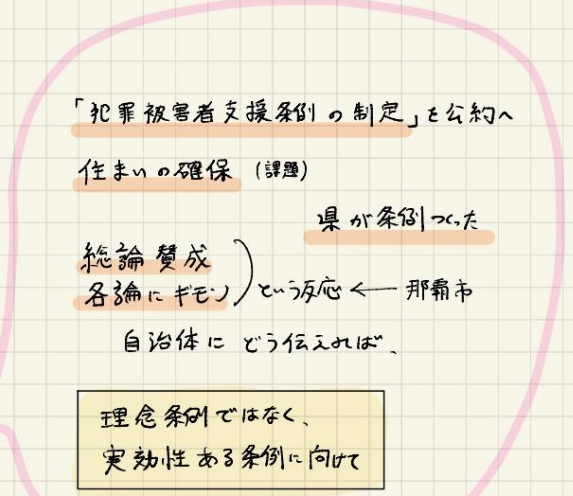


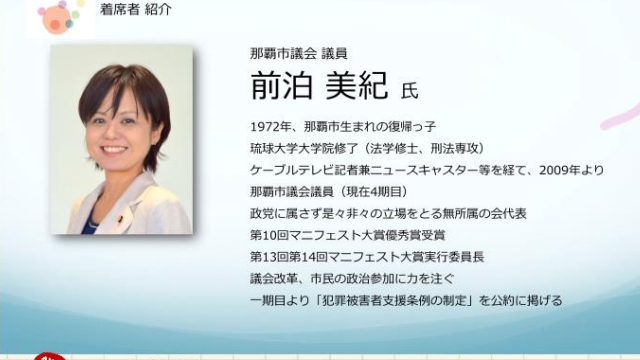

1 2023. 3. 18



ある日突然生活が激変してしまう、犯罪被害者という境遇に陥ったとき、そこにはどんなニーズが発生し、どういう支援があるべきなのかを考える

**前泊 美紀 氏**  
那覇市議会議員  
**無所属の会**





**前泊 美紀 氏**  
那覇市議会議員  
 1972年、那覇市生まれの復帰っ子  
 琉球大学大学院修了 (法学修士、刑法専攻)  
 ケーブルテレビ記者兼ニュースキャスター等を経て、2009年より  
 那覇市議会議員 (現在4期目)  
 政党に属さず是々非々の立場をとる無所属の会代表  
 第10回マニフェスト大賞優秀賞受賞  
 第13回第14回マニフェスト大賞実行委員長  
 議会改革、市民の政治参加に力を注ぐ  
 一期目より「犯罪被害者支援条例の制定」を公約に掲げる

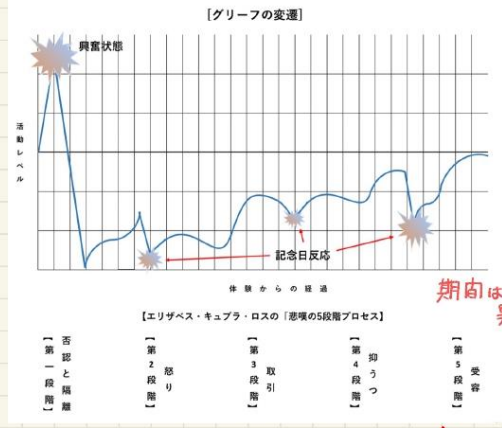
2 2023. 3. 18

着席者 紹介



～犯罪被害者支援～ひだまりの会Okinawa 代表  
**河井 由美 氏**

1968年生まれ、宜野湾市出身。  
上京して大学を卒業し、東京の出版社で2年間勤務したのち、退職。  
帰沖後は1993年に故川満正則氏が経営する学習塾（生徒数1800名を超える県内最大学習塾に成長）に入社後、結婚。  
2005年2月、幹部自衛官による通り魔強盗により正則氏が命を落とした後、16年間に渡り、亡き夫の跡を継ぎ会社代表を務める。  
事件後の2006年8月に刑事裁判が結審した後、翌9月、犯罪被害者支援自助グループ「ひだまりの会okinawa」を立ち上げ、現在も代表として、県内外の犯罪被害者に対して支援活動を継続している。  
2022年11月、沖縄県犯罪被害者等支援審議会審議委員に就任。



犯人みつかるまで 2ヶ月  
3.0オの子ども  
眠れない・食べれない  
↓  
何かわからないまま数年がたった

生活が激変する  
被害者のおかれた立場  
裁判(1年ぶつて)後  
自助グループつながる(県外)  
↓  
会も立ちあげた

HPたちあげた  
全国の自助グループへ参加  
グリーフケアとの出会い  
ショックな出来事あったとき  
何がおこるのか  
家族の中もそれぞれ  
うけとめ方異なる

3 2023.3.18



交通犯罪被害者遺族  
**上原 義教 氏**

2019年、東京東池袋自動車暴走死傷事故で娘(当時31歳)と孫(当時3歳)を亡くす。  
事故後、娘の夫と共に被害者参加制度を利用し公判に参加。公判後は欠かさず記者会見を開いて繰り返し思いを語ってきた。  
判決後も「悲惨な思いをする交通事故がなくなってほしい」という思いで、交通事故の防止に関する活動を続けている。



**東池袋自動車暴走死傷事故**  
2019年4月19日 松永真菜さん(当時31歳)と長女の莉子さん(当時3歳)が死亡、他9人が負傷。犯人の飯塚幸三(当時87歳)被告自身も怪我を負ったため、退院後逮捕、起訴となる。  
2021年9月2日 検察側の禁錮7年に対し、裁判所は禁錮5年を言い渡した。  
2021年9月17日 弁護側、検察側とも控訴せず、求刑どおり禁錮5年が確定した。


連絡うけて 東京へ  
信じられない  
泣くしかできなかった  
東京行くこと反対してれば...  
↓  
自分をせめて、夜も眠れる

仕事にも手がつかず  
その後退職  
世界で一番幸せだと思っていた  
それが一瞬で  
妻もその3年前

命を断つても考えた  
今、生きています  
東京で裁判しないといけない  
経済的にも大変だった  
眠ることができない  
お酒そのまなつて  
2019.秋には 沖縄で  
い、はやく予定だった  
家も手ばなした→借金もかえし

4 2023.3.18

着席者 紹介



～犯罪被害者支援～ひだまりの会Okinawa会員  
**高木 久志 氏**  
 五年前、大分にて、トラック砲撃を受けた。  
 息子が死亡、遺された家族の心が崩壊、  
 交通戦争の地獄に突き落とされた。  
 ほぼ支援されず自力で避難所を探しまよった。  
 辿り着いたのがひだまりの会okinawa。 → 3年かけて  
 その頃から、複数の会で多遺族らと交流開始。  
 被害者支援や交通事故撲滅について、  
 国や県に、個人や会から要望書提出など実施。  
 妻は「星になった啓至」の執筆や横断幕寄贈。

自力で支援にたどりつくしかない。  
 またくいえず、くやしさいかり  
 今までの自分でない自分が出てきた  
 加害者・犯人へのいかり ) おににかわった  
 法・警察なども被害者によりそってほしい  
 → ほきださないとハレフしうだった  
 ひだまりの会へ  
 条例 → 理念

警察も何も説明ない  
 交通事故は「犯罪」か。 → あいまい  
 「犯罪被害者支援」の対象外なのか。  
 通達もすみずみまでみるこいし書いている  
 メンタルケア — 公費負担?  
 ばいしう金で?  
 連絡事項 「やぶなくてもいい」 — 本当に?

もってわかりやすくメニュー化して。  
 助けてくれてもいいのでは  
 制度 経済 メンタル など  
 メニューと説明 警察からの攻めき  
 自治体と警察この「つなぎ」  
 被害者支援室  
 いっしょにいて  
 くれて、守って  
 くれる人がいて

5 2023. 3. 18

着席者 紹介



沖縄県犯罪被害者等支援アドバイザー  
 沖縄被害者支援ゆいセンター前事務局長  
**池原 泰子 氏**  
 沖縄県読谷村出身。  
 警察官として41年間勤務  
 (定年前の4年間は県警本部DV・ストーカー対策補佐)  
 2015年～2022年  
 公益社団法人沖縄被害者支援ゆいセンター事務局長  
 2023年より、沖縄県委託業務「沖縄県犯罪被害者等支援  
 アドバイザー兼総括責任者」(現職)  
 沖縄県公安委員会より「犯罪被害者等早期援助団体」として  
 指定を受けたゆいセンターの事務局長兼犯罪被害相談員  
 として、多数の支援事業に関与。

県 消費くらし安全課  
 ↳ 3年で異動  
 窓口のイタ  
 うけている  
 市町村も同じ  
 ↳ 窓口で対応できる人材育成  
 各市町村

警察 ができる支援をゆいセンター  
 事件・事故すぐ後  
 まず「つなぎ」のは 警察  
 警察・関係キカ  
 日本財団  
 給付金  
 制度いろいろあるが、  
 つながらないと使えない  
 県条例 → いろいろな制度できてくる  
 けいほうは とても大事  
 被害者  
 被害にあったことを職場に知られたくない  
 という人も  
 事業者の特別休カなど  
 みなで考えていけるように

6 2023. 3. 18

着席者 紹介



医療法人 社団 輔仁会 田崎病院 精神科医  
**佐村 瑞恵 氏**

1963年 東京北区生まれ  
1990年 琉球大学卒業  
琉球大学病院入職  
1993年 田崎病院入職、現在に至る  
子ども・女性・老人を中心に診療

<本日の参加の動機>  
①この場に参加できない被害者の方の声を少しでも代弁できればと思いました。  
②回復のために私たちにできることをともに考えたいです。

被害の後遺症  
(PTSD、うつ病、社交不安症・・・)

- ・フラッシュバック
  - ・過覚醒
  - ・回避
  - ・感情調節障害
  - ・対人緊張
- = 社会への不自信、他者への不自信、自分への不自信  
(特に信頼すべき相手からの被害の時)
- 回復とは・・・失った信頼を取り戻すこと**

被害に遭った時に人はどう反応するのか

- ①ある日突然被害に遭う  
⇒ **フリーズ** (固まる)・・・命を守るための原始的反応  
× 「何で抵抗しなかったの?」 ⇒ 「私が悪いってこと?」  
= 二次被害 ⇒ **罪悪感、恥の感覚**
- ②日常的なDV や虐待  
⇒ **順応** 「殴られるお前が悪いのだ」  
⇒ **自尊心の低下**

一見トラウマとは関係ないように見えることも

- ・頭痛などの身体症状
- ・嗜癖 (アルコール、薬物依存、ギャンブルなど)
- ・自傷行為、自殺未遂
- ・非行
- ・引きこもり
- ・性的逸脱
- ・摂食障害
- ・人格障害
- ・発達障害

あなたの職場にこんな人が就職してきました。

Aさんは

- ・視線を合わせない
- ・怒ったような話し方をする
- ・ドアを乱暴に開ける
- ・急に理由も言わず早退してしまった

⇒ 「何なの?あの人、失礼な人ね」

でも、実はAさんは、そのあと私のところへ来てこう言ったのです。  
「折角就職できたのに、怖くて目を見て話せません。緊張してつい、ぶつさら様な返事をしたり、動作がさこちなくなります。翌日、ふたの視覚が急にお客さんとして来たので、パニックになって職場から飛び出してしまいました。どうしたいですか?」

・実はAさんはDVの被害者ですが、職場の人はそのことを知りません。

知らないけど  
支援はできるのか

7 **おじゃ** 2023. 3. 18

想像力

着席者 紹介



NHK沖縄放送局 記者  
**上地 依理子 氏**  
かみじ

2021年4月、NHK入局。  
沖縄放送局コンテンツセンター記者として事件・事故取材を担当。  
東京・池袋の暴走事故で娘と孫を亡くした上原義教さんをはじめとする被害者家族、被害者支援について取材を続けている。

サブセッション



亡くなった後も取材することはない

心・メンタルのきずは一生

事故は一瞬

ニーズのちがひ / ひろく

経済的な苦しみを

個人レベルでたよってよいのか

2重の苦しみを

二次被害

報道

想像力

知ることから一歩

8 **おじゃ** 2023. 3. 18



## セッション2

基本的な支援

窓口的窓口

日常生活支援

経済的な支援

ヘルパー派遣  
(生活サポート)

福祉サービス

引越などの住居

事業者の理解

(休カなど)

裁判費用

県民への「かほつ

カウンセラー → 助成

病院へのつきあい

弁護士相談 → 弁護士会

マスコミ対応

窓口がつかない

ゆいセンター (会社・キフ)

財源

保険の中に  
弁護士特約

制度あるのに  
つながらない

→ しんこうしているかの調査

→ 情報の透明化

ゆいセンター

各病院

市町村

地域

← つながり

支援が必要な  
被害者

海外  
の事例

中野区  
の事例

どうすれば  
事件直後から  
支援につながるには

最初に頼める人が  
つないでくれること

行政  
3年の異動で  
対応かわる

## ➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

### [早期支援]

犯罪被害者が早期に必要な支援につながるために、行政内での相談対応の体制づくりや地域組織などが支援制度、支援団体について知るしくみづくりが必要

### [長期的な支援と財源確保]

犯罪被害者支援と併せて、県や市町村で分担をしながら犯罪被害者支援団体への財源等の支援が必要で、特に長期に渡る支援の必要性を考えると複数年度で弾力的に拠出可能な基金や寄付の受け入れの機能等も検討すべき

### [条例化]

従来の支援制度を整理し、制度につなぐことを担保しながら、犯罪被害者支援の基礎自治体での条例化を目指す。特に早期の経済的支援を明文化することで、実効性のあるものとするべき



## ■参加者によるサブセッション

### ある日突然生活が激変してしまう、犯罪被害者という境遇に陥ったとき、そこにはどんなニーズが発生し、どういう支援があるべきなのかを考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

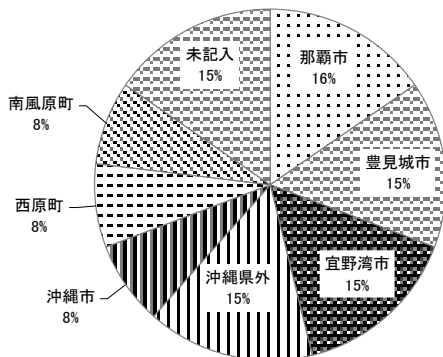
- ①
  - ・ 窓口（ワンストップ）で繋がる
  - ・ セミナー（勉強会）で学ぶ
  - ・ 行政側の専門職の配置
  - ・ 長期で話を聞く存在
- ②
  - ・ 行政の窓口の想像力が足りない
  - ・ 予算がない！と
  - ・ 県のメニュー（支援）も整理されてない
  - ・ 明示されることから（担当者によらない）
  - ・ 専門家の横の連携がほしい（→行政が）
- ③
  - ・ 被害者は弁護士に任せていて、何をしたいかわからない、置かれている立場もわからない
  - ・ 被害者の支援があまりなされていない
  - ・ 支援のネットワークが行き詰まったとき、何を伝えたらいいのか、考えているヒマがない。取り残されているような…（機会と人がいるだけでなく）
  - ・ 真実を知ることが危ない、寄り添ってほしい
- ④
  - ・ 経済面→給付金、ゆいセンター、緊急支援金、転居・治療・葬祭費 etc…
  - ・ 心理的ケア→離島支援、アウトリーチ
  - ・ ワンストップ支援、事件が起きた時点で各分野の支援者がかけつけて役割分担、児童・弁護士・センター（各機関連携）
- ⑤
  - ・ 交通事故はとつぜん起こるので自分も加害者の可能性もある。被害者にも。
  - ・ バイク運転している。初心者マークもっていたころのきんちょう感、雨ふる時は、より安全うんてんをするようにするから、少しあんしんする。支援の対象にならないことはダメだよな、いわかんを発信
  - ・ 学校いく時、横断ほどうで、車のマナーわるい人おおい、あぶない。いつひがい者になるかわからない
  - ・ 心理学専攻、カウンセリング室でひがい者をまっていたが、今はアウトリーチする形がふえている、ケーサツから、支援について話をするしくみを。自分がひがいにあったことをうけいれない
  - ・ ひがい者には何どもなんども支えんサポートをつなげる。
  - ・ 性ひがいは、ワンストップセンターへ。しかし交通はワンストップセンターがない！ゆいセンターがやくわり。
  - ・ 紹介→ぼうかんとつなぐこと→きもちをくむよりそうのちがい
  - ・ 大変な時は判断しづらい→情報のせんたく
  - ・ 専門職サポート、せいどのはざま
  - ・ ケーサツとカウンセラーしよどう対応
  - ・ ケーサツ官のメンタルケアのまなざし
  - ・ 理不尽

## 犯罪被害者支援地域円卓会議 参加者アンケート集計

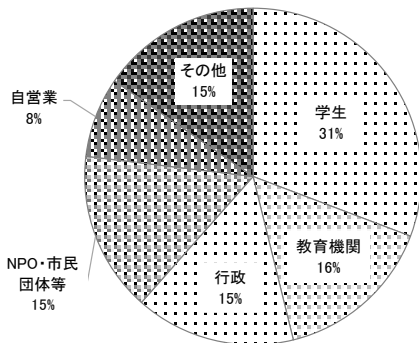
### ◆概要

- ・日時：2023年3月18日（土）13:30-16:10
- ・場所：沖縄県総合福祉センター1階ゆいぽーる
- ・着席者：8名（論点提供者、司会、記録者含む）  
着席者のうち1名はzoom接続にて参加
- ・参加者：21名（アンケート回収13名、回収率62%）

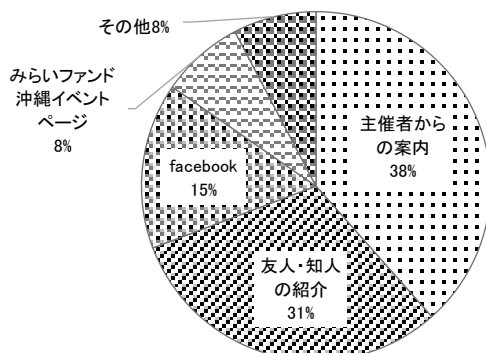
### 1. どちらから？



### 2. 所属



### 3. 円卓会議はどのように知ったか



### 4. 満足度

平均：4.8（5点中）

満足度	人数
5. 満足	11名
4. 概ね満足	2名
3. 普通	0名
2. あまり満足していない	0名
1. 不満足	0名

### 5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 実際被害にあった方からの話をきくことができたから
- ・ 参加されている方がさまざまな分野の方でいろいろな視点で考えることができました。
- ・ 私自身が10月に交通事故で飲酒運転が前から突込んでくる事故にあいました。今日の今日まで感情的になったりしなかったのですが、話を聞いて初めて認知した感覚に落ちいました。今回参加できてその部分に気付かされたと思います。
- ・ 犯罪被害の方々の声を聞くことが初めてだったのでとても考えさせられました。
- ・ 内容はかなり考えさせられるものでした。ただ参加者に警察・検察・関係機関がほとんどいなかったのもったいないと思いました。ぜひ警察等の関係者に聞いてほしい。
- ・ 色々な話しが出来た。新たな視点から考えることが出来た。
- ・ 当事者の方、支援者、制度に関わる議員の方など、多角的なお話、取組みのヒントを聞けて勉強になりました。
- ・ 貴重なお話、簡単ではないテーマで、濃密な時間となりました。話しあいやふりかえりのしかた、みのりある機会とするための、運営をみせていただいたことも大きな学びになりました。
- ・ 犯罪被害者支援というテーマについて、県

議会の方や当事者、医師、記者など、様々な立場の人からの話を聞いたことで理解が深まり、私たちにできることを考えやすかったからです。

- ・ 今回犯罪被害者がいつどのような犯罪を自分あるいは自分の関係者が経験したということを知りたいだけでなく、参加してくれた大人の人達とグループをつくってそれぞれの意見や考えを伝え合い、大人は犯罪被害者についてどう考えているかというのを聞くことができたからです。
- ・ ニュースなどでよく交通事故について報道されていたけど、私はその時の被害者の心情にばかり注目していて、その後の経済的な苦労や心のケアについては考えていなかったもので、そのことに気づける貴重な機会となっからです。

#### (4. 概ね満足)

- ・ 発信者(センターメンバー)の顔もスクリーン(画面に)写る形にできるとより情報が伝わるのでは? ※注文が多くてすみません
- ・ 当事者のリアルな声を聞くことができた。知らなかった支援制度を知ることができた。

### 6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 参加者の声を多くとりあげること、次につながるとりくみであると感じました
- ・ 上原さんのお話をきけたのは大きかったです。ゆいセンターを知らなかったので紹介したいと思いました。問い合わせの件数が増えることで予算とかかけることに繋がれたらと思います。
- ・ 高校生も参加していてとても頼もしいと感じました。
- ・ 高校生が学校でも考えていきたいと話して学校で円卓会議開催してほしいと思いました。
- ・ 犯罪被害者も加害者も出さない取り組み!

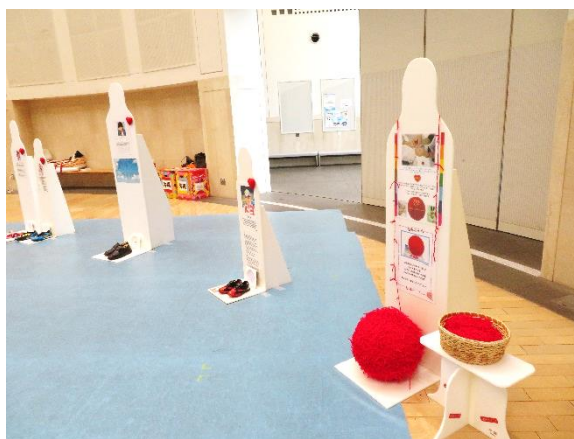
- ・ ゆいセンターのアウトリーチ、中野区の話は自分でも調べてみたい。
- ・ 初動からつなぐ制度、存在、ひとの必要性、回復 - (さまざまな)自分、他人、他者、社会への信頼をとりもどすこと。
- ・ 支援をつなぐということが印象に残った。被害に合うと混乱するのが当たり前なので、被害者が自ら動くのではなく、周りの方がひだまりの会などにつないであげるのが大切だと思った。動線がしっかりしていると対応しやすい。
- ・ 印象に残ったことは、今回ゆいほ一に来たくれた犯罪被害者の方が犯罪について語ってくれたり解決策などについて話し合い、それだけでなく参加した大人の方達とも犯罪について話し合い大人の考えを知れたことです。また「いかにどう発信するか」というアイデアは自分の脳内になかったので良いなと思いました。
- ・ 警察からゆいセンターなどの被害者支援センターへとつながりやすくするのが大切ということが印象に残りました。また被害者への支援として、事件事故が起こったときにカウンセラーなどと密に協力していくのがいいと思いました。
- ・ 被害者搬送先病院に被害者遺族を守ってくれるサポーターを派遣する。被害者支援情報が広がるための市町村条例。これまで被害者は厳しい状況にあった事に驚きました(ゆいセンター、国や県からの助成がない?)

### 7. 会議運営についての意見、感想

- ・ 今回貴重な機会を下さいましてありがとうございました。つなぐ を考えていきたいです
- ・ 自分の気持ちに整理ができました。自分はただ寄り添うことしかできないと思いました。

- ・ 久々に対面での円卓会議に参加させていただきました。とても有意義なものになりました。ありがとうございました。
- ・ もっと多くの支援者の方々に参加していただきたい。
- ・ 時計を設置してほしかったです。
- ・ 時間の流れがあっという間でした。「困ったら人はつながる」という社会に戻す活動に感謝です。
- ・ ハイブリットの運営は大変だったと思います。円卓形式はよかったです。タイムマネジメントに関して時間を過ぎる場合、一度区切っていただけるとありがたいです。

(写真) 会場の様子



・Uが1者には、何とせ、なんとせ  
 支えサポートもつなげる。  
 ・性差Uが1は、ワストップセンターへ  
 6カ所。交通は、ワストップセンターが1!  
 VPセンター ←  
 が1あり。  
 ・紹介と、つなぐことのちがいは、  
 ↓ さいご... さいごまで、より。 ↑  
 小青年の せんたく 大卒な時は、  
 専内職、せいどのほさま、判断しらす。  
 甘酒ト  
 ・U-サリセ カリセラ- しょう ~~...~~  
 ・U-サリ官のメンタルケアの、まじらし。  
 ・理不尽。  
 ・交通事故は、~~...~~ せいせいおきるので、  
 自分も被害者の可能性がある。Uが1者にも。  
 ・バイク警察がいる。初回はマークもついたら、その  
 きんちゆう感。雨ふる日は、より安全うんてを  
 するようにするから。しんあいのする。  
 支援の対象になら1ことは、あxだよな。  
 いわかんを 又通信  
 ・学校い1の時、横断はとうで、車のマ-  
 ちる1とおおい。ある1な1。  
 い1Uが1者になるかからな1  
 ・1心理学専攻、カウンセリング室をUが1者  
 ま、つたが、今は、アウトリーチするUが1  
 ぶつて1いる。U-サリから、支援に1つて  
 話をしにく。E。  
 自分がUが1にあ、た=とどうかはな1

行政の窓口の想像力が足りない。  
 予算が1ないし  
 県のX=ユ- (支援) も整理されてない。  
 明示されることから。(担当者が1ない)  
 専門家の権の連携がほしい。(→行政)

・窓口(ワストップ)で繋がら  
 ・セミナー(勉強会)が学ぶ  
 ・行政側の専内職の配置  
 ・長期で話を聞く存在

格差者は年々拡大している。何をしても  
分らない。置かれている立場を分らない

被災者の支援が必要だとわかって

支援のネットワークが行政に絡まないと、何を伝  
えられないか。考えているところが

取り残されているように... (機会と人がいるだけ  
ではない)

真実を知ることが危ない。寄り添って  
ほしい。

